

黒岩県知事から表彰されました

本年7月2日、神奈川県日赤紺綬有功会令和6年度定例総会に初めて参加してきました。場所は横浜桜木町にある県民共済プラザビル6階『ヴァランセ』にて開催されました。約80名の方が参加され、私は新入会の会員として紹介され、さらに銀色有功章受章者として黒岩神奈川県知事（神奈川県日赤支部長）から表彰を受けました。（写真）

総会では日赤の成り立ちや万博との関わりなどを講演いただき、理解を深めることが出来ました。

第二部の懇親会では、私の隣の方がかなりの酒豪で、ついつい釣られて私も昼間から飲み過ぎてしまいました。その方は、その後野毛に繰り出してさらに飲みに行くと言っていておりました。

話は変わります

がこの日赤紺綬有功会の会員名簿をもらいましたが、私が住んでいる川崎市多摩区の会員はなんと私を含めて4名だけでした。意外と少ない事にビックリしました。（私の周りには結構なお金持ちがたくさん居るんですけどね〜）



私は寄付を続けて次は金色有功章の受章を目指したいと思います。頑張ります。

オークションで絵画を落札しました

5月にオークションで油絵を2枚落札しまして現在事務所に飾っております。今までは絵画を自分で所有するなんて考えた事もありませんでした。長年お世話になっているマーケティング勉強会の主催者の方が「アートに触れる事は大切です。」「商売はアートです」と、事ある毎に仰られそれに影響されたのかもしれない。そうすると今まで殺風景だった事務所でしたが、雰囲気がとても明るくなりました。心も和みます。少し高級感も感じます。絵画の持つ力の偉大さを少し分かる様になった気がします。これからも気に入った作品に出逢えたら、購入を検討したいと思います。



朝比奈 文雄「セーヌ河」



関 拓司「ディップの港」

私の履歴書

齊藤勝好

中学入学

昭和51年4月、川崎市立渡田中学校に入学。私が通っていた川崎小学校からは川崎中学校に進むのが本来の学区なのだが、自宅から川崎中学までは徒歩で約20分かかり、一方の渡田中学は徒歩10分だった。そして兄興一も渡田中学に通っていたので、自然とその流れになった。川崎小学校から渡田中学に進学したのは3人だけだった。渡田中学は当時でも珍しく男子は全員が坊主頭。街を歩いているとすぐに渡田中学の生徒だと分かってしまう。まあ、今思うとサッパリしていて良かったと感じている。

渡田中学校の学区には、幼稚園で一緒だった友達がたくさん居り、懐かしい顔ぶれに久しぶりに会う事ができた。だが当然、クラスメートの大半は初対面の人がほとんどだった。その中でも佐々木孝志君とは入学式当日からウマが合った。名前の五十音順でも『齊藤・佐々木』と隣になるし、背の順でも僕が後ろから3番目で彼は2番目だった。（そうなんですこの頃は背が大きい方だったんです）彼とはその後、釣り・サイクリング・バイク・サーフィンと一緒に遊び、今でも年に1〜2回会って

旧交を温めている。

担任の先生は林田先生。ガツシリした身体に日に焼けた肌、そしてモジャモジャの髪の毛。初めて見た時は「なんか怖そうな先生だな〜」と感じたが、実際は気さくな先生で山登りを趣味としていた。確かエベレスト登頂にチャレンジして新聞に載った様に記憶している。（違ったかな〜）担当科目は理科で、最初の授業の時にいきなり黒板に大きな円を描き『さあ、これは何でしょう？』と皆に質問をしてきた。我々生徒たちは、思いつくことを次から次へと答えていった。「十円、百円、鼻の穴、地球、月、太陽、コップの底、煎餅、などなど」延々と続くのだが、どの答えにも先生は首を横に振った。結局答えは何だったかすっかり忘れてしまったが、先生は「物事を見るときは色々な角度から見ないといけない。そして想像力を働かせる事がとても大切だ。それが理科（科学）の基本だ。」と言うことを教えて下さった。

中学に入ると部活動というものがある。小学校の時は町内会の少年野球で四番を打っていたので野球には興味が有った。ただ、見学に行くときと当たり前だがそれまでとレベルが違う。さらに先輩達が厳しそう。バトミントンやテニスにも興味があって見学したが何故か入部する気にならなかった。一つにはこの頃はまだ我が家は生活保護を受けていたので、

部活で使う道具やジャージ等の購入を親に頼み辛いや言うのが有った。そしてやはり心のどこかで周りに対して何か引け目を感じていた様に思う。自分で言うのもなんだが、割と運動神経は良かった方なので、何か運動部に入っていたら違う人生を歩んでいたかもしれない。話は変わるが、よくよく思い出すとエレクトーンのレッスンは続けて通わせてくれたので親には感謝している。そのお陰か今でもエレクトーンを趣味として楽しんでいる。



遠足（拡大部分 左から 佐々木君、林田先生、筆者）

中学1年の終わり頃だったと思うが、どう言う事情が有ったのかはわからないが、父親が家に戻ってきた。そして、工場に居座っていた父親の悪徳社長がいなくなり父親の齊藤鋼管が復活した。どう言う手を使って再起を図ったのかを、父が生きているうちに聞いておくべきだった。（母を社長にしたのかな〜？）

（続く）

編集後記

お陰様で『エスピーエヌ新聞』も第13号の発行に至りました。これまで支えて頂きました皆様へ感謝を申し上げます。本当に有難うございます。

7月に第5回エレクトーンミニライブを開催いたしました。当日の開催1時間前からゲリラ豪雨！雷もすごく、ご参加頂けたのは2名の方だけでした。まあ、あの大雨では誰も外には出られないでしょう。ここの所の猛暑といい、最近の異常気象には閉口させられます。やはり人類が地球上で好き勝手にやってきたしっぺ返しでしょうか？温暖化をなんとか止めたいものです。せめて戦争・紛争をやめて爆弾やロケット、戦闘機・戦車などからの排熱を抑えれば多少は人類の延命に繋がるのではないかと考えています。どうなのでしょう？

エスピーエヌ新聞の方も、こんな事を載せて欲しいとか、こんな事を聞きたいなどございましたら、お知らせいただけると助かります。皆さまと一緒にこの『エスピーエヌ新聞』を作って行けたら幸いです。今後とも、何卒よろしくお願い致します。



↑SPN 新聞のバックナンバーはこちらからご覧頂けます